

今日のみ言葉 237 「恐れるな、あなたは私のもの」 2014. 4. 19

しかし、今や あなたを創造された主は、あなたを造られた主は、こう言われる。
「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。
わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。（イザヤ書43の1より）

But now thus says the LORD, he who created you, he who formed you,
Do not fear, for I have redeemed you; I have called you by name, you are mine.

神は、困難にある民、祖国から遠く離れて生きてきた人々に、今や新しい時が到来したことを告げる。それまでは全く神から見放されていたように見え、いつまでこのみじめな異国での生活が続くのか、神などいないのではないかとすら思えたその長い時はようやく終わって新たな時代が到来した。圧迫され、捕らわれている状態から、神が解放して下さるときが来たという知らせである。

この旧約聖書の言葉は、キリストの時代より、500年以上も昔に語られたものであった。しかし、これは、キリストによって、新たな生きたメッセージとなった。

長い、自らの罪による苦しみ、病気や人間関係のもつれ、またさまざまな災害や戦争、飢饉等々、人間を襲ってくるさまざまなものが至るところで見られる。そうしたものは私たちを縛り、苦しみのなか、闇のなかに関じ込めてしまう。

しかし、今や、そうした一切のものから解放されるときが来たのだ、という意味が込められている。それは、そうしたあらゆる問題において常に、根本にあるのが、私たちが正しいあり方に反して、自分中心あるいは目に見えるものばかりを念頭においてしまうということ—それが罪であり、それが気付かない場合も多いが、それが根本問題となっている。そうした罪から脱却できるならば、長いトンネルから出て明るい光の世界に接するように、また山の頂上から私たちは眼前に広がる光景を見るように、新しい世界を見ることが出来る。そして、罪除かれて神との霊的な結びつきが与えられるとき困難に耐えて歩む新たな力が与えられる。

この聖句で、今や新しい時となった。神があなたを創造したのだ、ということが特に二種の言葉—創造、造る—によって強調されている。ここで「創造する」と訳された原語 *barar* は、無から天地を創造という時などに用いられるが、イザヤ書の40章以降に多く用いられている。(*) 天地を創造された無限の力を持つ神だからこそ、いかなる困難からでも解放することができる。そのことを迫ってくるような情熱的な響きをもって語っている。この言葉はそのまま、現代のさまざまな問題に悩み苦しむ私たちへのメッセージである。

(*) 旧約聖書全体で *barar* は54回用いられているが、そのうちイザヤ書で21回、そのうち20回までがイザヤ書の40章以降で用いられている。40章以降は、遠い異国での捕囚からの解放ということが主題となっていて、その時に、新しい創造ということが特に啓示されたのがうかがえる。次に多く使われているのが創世記の11回、詩篇6回と続く。

闇と束縛の世界から解放される（あがなわれる）だろう、といった推量でなく、「あがなった」という完了形が意味深い。あがなうとは、代価を払って買い戻すという意味であり、私たちの努力や政治、社会的な変化で解放されたのではなく、それらによっては不可能であるゆえ、神ご自身が私たちをあがなってくださいだったのである。「あなたの名を呼んだ」神が一人一人の魂に向かって強く呼びかけてくださっている。この呼びかけを聞き取るとき、聞き取れないようなときでも、そのことを信じて受け取るとき、私たちの心は安らぐ。この宇宙を創造したような絶大な力を持っているお方がこの弱く倒れそうな自分に呼びかけて下さっている—そして私たちを取り巻くさまざまな問題に対しても「恐れるな」と励まして下さる。私たちのこの取るに足らないものが、その大いなる神様のものとしてしっかり持ってくださる、守り、支えてくださる—というのである。今から2500年以上も昔に語られたこの神の言葉は、その長い歳月を通して今も語りかけられている。



このツマトリソウは、本州、北海道、そして四国の高山にも分布すると記されていますが、四国の山々では私は見たことがなく、この吾妻山で初めて見る機会を得ました。

この山は、吾妻連峰とも言われ、山形県と福島県の県境にある火山の山々の総称で、最高峰は西吾妻山（2,035メートル）。

この花のあった地点は、標高1700mほどで、近くに湿原や小さな湖と言えるような美しい鎌沼も広がっています。この花はサクラソウ科で、ほかの多くのサクラソウは、赤紫色の美しいものが多いのですが、これは純白の花です。

花びらの先端が赤く縁取られるものがあるので、端取草の名があるといいますが、この写真のものには見られません。高さは、15cm内外で小さなものですが、草むらや山道のかたわらに咲く純白の花の姿は、山道を歩くものに天来の滋養となります。

この花は、じっと見るものを見つめ、語りかけてくるような雰囲気なたたえています。その語りかける言葉は、この植物を創造された神に由来するものゆえに、かぎりなく清いものがあり、それゆえにこうした高山の野草にとくに心惹かれます。

聖書のなかに、「わたしの罪をぬぐい去って清めてください。雪よりも白くなるように。」（詩篇51の7）とあります。

はるか数千年の昔からこうした純白のものは私たちの罪の汚れからの清めへと心を引き寄せるものがあります。

（文、写真ともT. YOSHIMURA）